

<要支援者への支援の具体的な方法に関する意見>

- 早期発見・予防が重要。
- 心を病んでいる介護者等、助けを求める力のない状態にある人への対応が必要。
- ポイントは、「早く見つける」と「上手くつなぐ」。
- 「ちょっときて」(を手助けすること)で済むことがたくさんある。
- (事業の頻度より)何よりも顔なじみになることが大事。そこからつながりが生まれる。
- そもそも孤立化はなぜ起きるのかの検討必要。(サービスへのアクセスとの関係等)
- サービスへのアクセス(福祉アクセシビリティ)の支援が必要。
- その人の生活全体をずっと見ていくような支援(主治医のような仕組み)が必要。
- 若年認知症者のようなサポートされることに抵抗感をもつような要支援者の場合、デイサービスに、利用者としてではなく、ボランティアの位置づけで参加するなど、自分も役に立っているのだという気持ちで参加できるような形(「しに行く」形)も有効な方法。
- (介護家族同士の出会いと支えあいなど)当事者の力を最大限に生かす。
- サービスは、(意図する)特定の目的だけでなく、見守り等その他の機能も併せ持ち(機能が広がり)やすいものなので、サービスと生活の総合性との関係について整理が必要。
- (フォーマル)サービスを利用すると地域のインフォーマルネットワークから切れ、(フォーマル)サービスの利用をやめると(フォーマル)サービスのネットワークから切れてしまう。サービス利用に左右されない地域との関係づくりが必要。(フォーマルサービスのネットワークと地域のインフォーマルネットワークの関係をつくる必要性)